

発行日：平成26年5月10日

環境活動レポート

平成25年度（H25.4.1～H26.3.31）



目 次

環境方針	2P
会社概要	3P、4P
環境への負荷チェック	5P、6P
環境負荷削減目標	7P
具体的な環境活動計画の内容と取り組み状況	8P、9P
環境負荷削減目標と実績の評価	10P、11P、12P
まとめ、代表者のコメント	12P
環境関連教育	13P
環境関連法規への違反、訴訟等の有無	13P
新潟事業所、各営業所（本社、大阪、姫路）の活動実施状況	14P～23P

環境方針

永田精機(株)は、工業用編機、電子部品実装工程機器、各種自動機・省力化機器、薄膜成膜・表面改質装置の開発、製造及び受託加工、商品の販売を通じ、環境負荷削減に配慮した事業活動を展開していく。

1. 省資源・省エネルギー活動の推進

事業活動全領域で、省資源、省エネルギーに配慮した活動を行う

製品生産量（t）当りのCO₂排出量の削減

製品生産量（t）当りの水資源使用量の削減

製品生産量（t）当りの紙資源（コピー用紙）使用量の削減

製品生産量（t）当りの一般・産業廃棄物排出量の削減

化学物質の適正管理

グリーン購入（事務用品）の推進

2. 環境関連法規の遵守

該当する環境関連の法規制や条例、当社が同意するその他の要求事項を遵守する

3. 継続的環境負荷削減の実施

環境マネジメントシステムを構築し、継続的に環境負荷削減に取り組む

4. 環境啓発活動の推進

全従業員に対して環境方針の周知徹底を図るとともに、環境教育を計画的に行う

5. 環境関連情報の公表

環境活動レポートを当社HPで公表する

平成24年10月23日改訂

永田精機株式会社

代表取締役 永田 靖夫

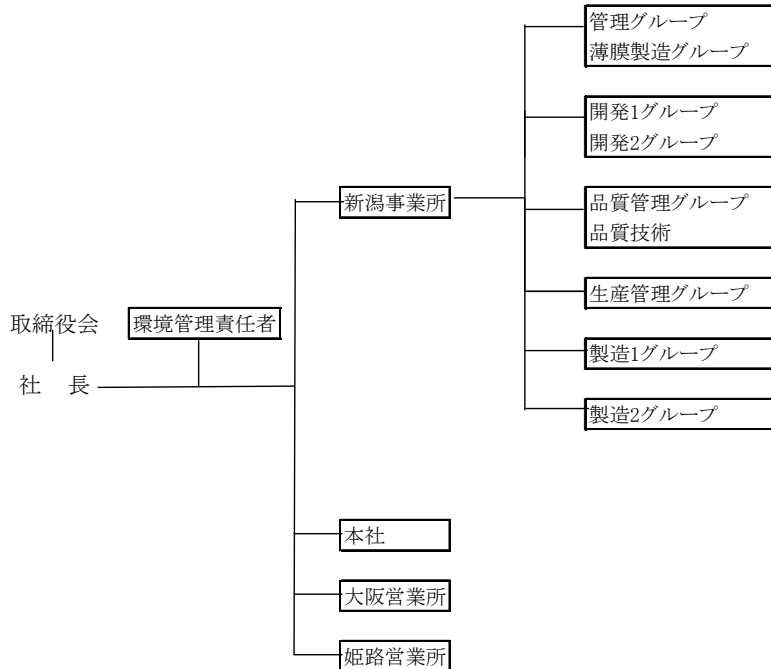
1. 会社概要

1) 名称及び代表者

永田精機株式会社

代表取締役 永田 靖夫

2) エコアクション21認証範囲



3) 事業所及び所在地

永田精機株式会社	本社	東京都豊島区北大塚2-24-5
永田精機株式会社	新潟事業所	新潟県燕市上諏訪8番2号
永田精機株式会社	大阪営業所	奈良県大和高田市日之出西本町6-23
永田精機株式会社	姫路営業所	兵庫県姫路市西庄甲108

4) 環境管理責任者及び環境活動推進責任者

・環境管理責任者	取締役	木村 純一
・環境活動推進責任者		
新潟事業所		
製造1グループ	マネージャー	小林 幸人
製造2グループ	マネージャー	山宮 秀昭
開発1・2グループ	マネージャー	小林 哲
生産管理グループ	マネージャー	大原 隆
品質管理グループ	マネージャー	大澤 洋一 (品質技術兼務)
管理グループ	マネージャー	白倉 武芳
薄膜製造グループ	マネージャー	石井 幸雄
本社		横田 美香
大阪営業所	サブマネージャー	岡本 栄一
姫路営業所		中井 一夫

連絡先

管理グループ 白倉

電話 0256-98-5131 (代表) FAX 0256-98-5642 (代表)

E-mail : take-sirakura@nagata-seiki.co.jp

5) 事業の内容

工業用編機、電子部品実装工程機器、各種自動機・省力化機器、薄膜成膜・表面改質装置の開発、製造及び受託加工、商品の販売、不動産の賃貸管理

6) 事業の規模

事業年度	単位	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度
製品生産量	t	216.6	146.7	187.2	115.8
従業員数(新潟事業所)	人	167	164	158	114
従業員数(本社)	人	5	6	6	4
従業員数(大阪営業所)	人	2	2	2	2
従業員数(姫路営業所)	人	1	1	1	1
合計	人	175	173	167	121
床面積(新潟事業所)	m ²	16,292	16,292	16,292	16,292
床面積(本社)	m ²	660	660	660	660
床面積(大阪営業所)	m ²	35	35	35	35
床面積(姫路営業所)	m ²	21	21	21	21
合計	m ²	17,008	17,008	17,008	17,008

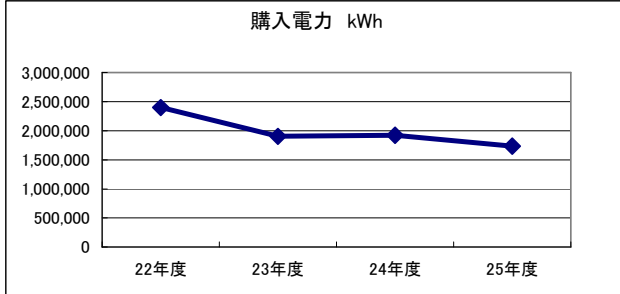
事業年度：4月～3月

2. 環境への負荷チェック

(新潟事業所、本社、大阪営業所、姫路営業所の合計値で表示した)

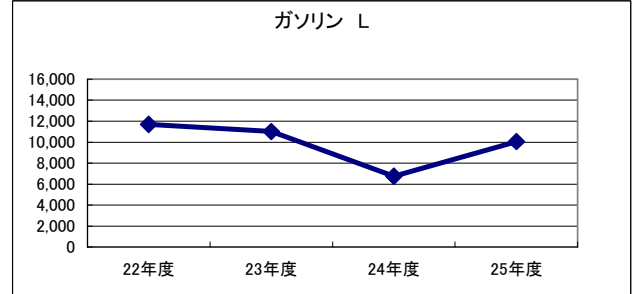
環境負荷実績グラフ

使用量・消費量



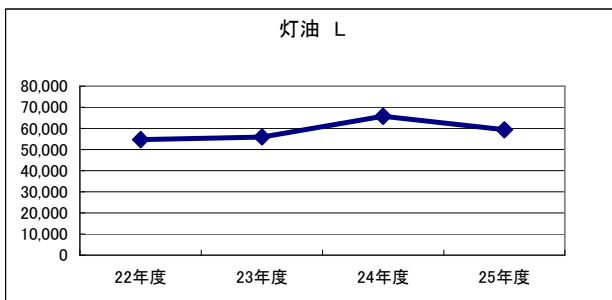
項目	単位	22年度	23年度	24年度	25年度
購入電力	kWh	2,400,452	1,902,718	1,922,738	1,735,724

使用量・消費量



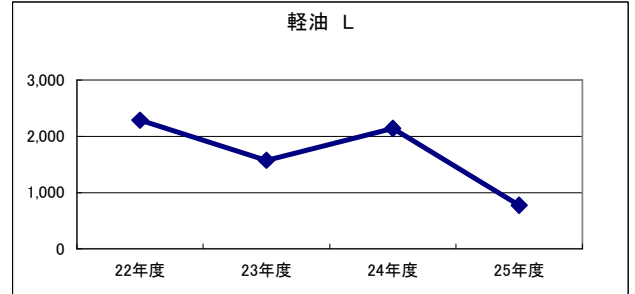
項目	単位	22年度	23年度	24年度	25年度
ガソリン	L	11,673	10,996	6,755	10,040

使用量・消費量



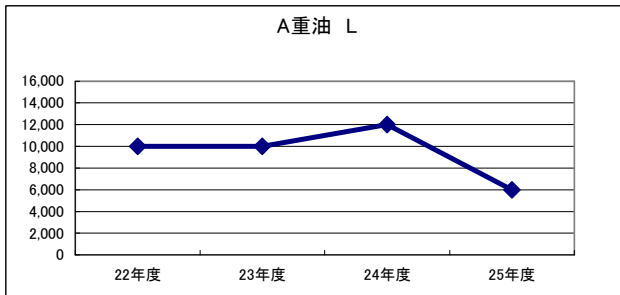
項目	単位	22年度	23年度	24年度	25年度
灯油	L	54,706	55,988	65,755	59,365

使用量・消費量



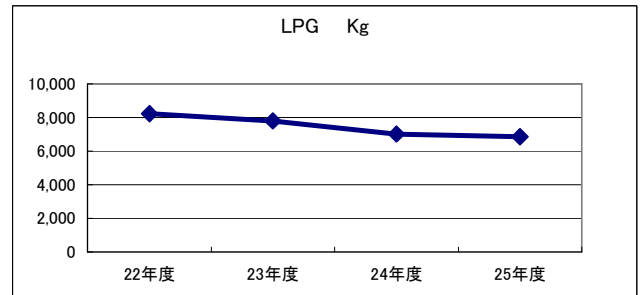
項目	単位	22年度	23年度	24年度	25年度
軽油	L	2,287	1,575	2,142	776

使用量・消費量



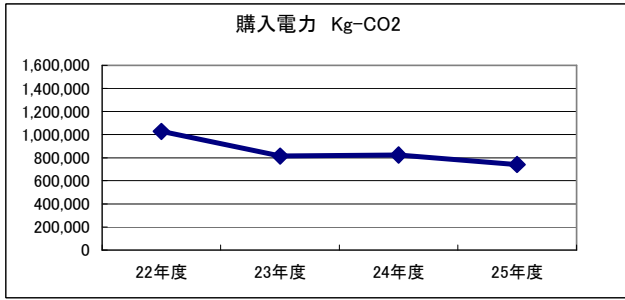
項目	単位	22年度	23年度	24年度	25年度
A重油	L	10,000	10,000	12,000	6,000

使用量・消費量



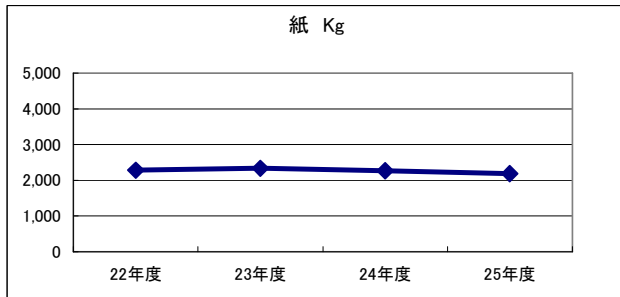
項目	単位	22年度	23年度	24年度	25年度
LPG	Kg	8,232	7,802	7,019	6,851

二酸化炭素排出量



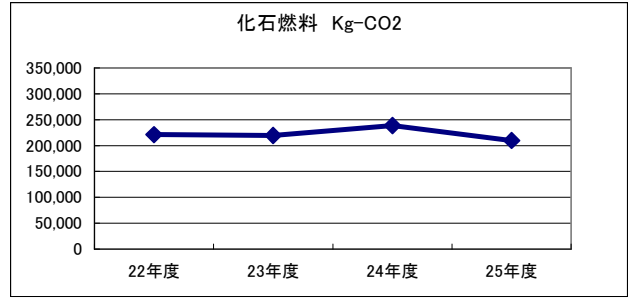
項目	単位	22年度	23年度	24年度	25年度
電力	kg-CO2	1,025,993	813,454	822,118	741,874
二酸化炭素排出係数 (Kg-CO2)			新潟	本社	大阪
			0.429	0.375	0.311
			H22年度	東北電力	東京電力
					関西電力

使用量・消費量



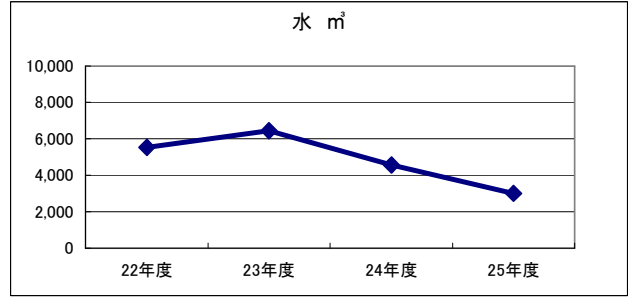
項目	単位	22年度	23年度	24年度	25年度
紙	kg	2,279	2,333	2,265	2,187

二酸化炭素排出量



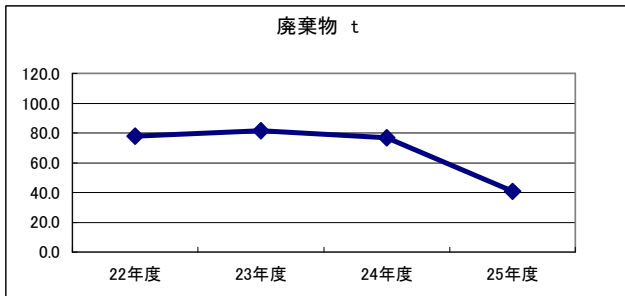
項目	単位	22年度	23年度	24年度	25年度
化石燃料	kg-CO2	221,236	219,698	238,748	210,104

使用量・消費量



項目	単位	22年度	23年度	24年度	25年度
水	m³	5,528	6,444	4,568	3,004

排出量



項目	単位	22年度	23年度	24年度	25年度
廃棄物	t	77.9	81.6	76.9	40.9

3. 環境負荷削減目標

当社は、以下の目標を掲げて環境活動に取り組んでいく

長期目標

平成24年度を基準として、平成27年度末までに

- 「電力、化石燃料消費による製品生産量当りの二酸化炭素排出量を3%削減する」
- 「製品生産量当りの紙消費量、水資源消費量、廃棄物排出量を3%削減する」
- 「ジクロロメタンの消費量を3%削減する」

短期目標

平成24年度を基準として、

- 「電力、化石燃料消費による製品生産量当りの二酸化炭素排出量を毎年1%ずつ削減する」
- 「製品生産量当りの紙消費量、水資源消費量、廃棄物排出量を毎年1%ずつ削減する」
- 「ジクロロメタンの消費量を毎年1%ずつ削減する」

二酸化炭素排出量 (Kg-CO2) の削減目標

製品生産量 (t) 当り 二酸化炭素合計 (kg-CO2)	H24 基準	H25目標	H26目標	H27目標
	5,666	5,609	5,553	5,496
H24を100としての指数 (H22年度の電気事業者ごとの実排出係数を使用)	100	99	98	97

紙消費量削減目標

製品生産量 (t) 当り 紙消費量 (Kg)	H24 基準	H25目標	H26目標	H27目標
	12.10	11.98	11.86	11.74
H24を100としての指数	100	99	98	97

水資源消費量削減目標

製品生産量 (t) 当り 水資源消費量 (m ³)	H24	H25目標	H26目標	H27目標
	24.40	24.16	23.91	23.67
H24を100としての指数	100	99	98	97

廃棄物排出量削減目標

製品生産量 (t) 当り 廃棄物排出量 (Kg)	H24 基準	H25目標	H26目標	H27目標
	410.79	406.68	402.57	398.47
H24を100としての指数	100	99	98	97

ジクロロメタン消費量削減目標

ジクロロメタン消費量 (Kg)	H24 基準	H25目標	H26目標	H27目標
	860.00	851.40	842.80	834.20
H24を100としての指数	100	99	98	97

この他

- グリーン購入を推進する
- 環境に配慮した製品を製造する
- 公害等に関する法令を遵守する

4. 具体的な環境活動計画の内容と取り組み状況

環境目標を達成するために、各項目に対して下記の手順で消費量の削減を図っていく

数値目標を達成するための取り組み（概ね実施＝○、一部実施＝△、未実施＝×）

①電力使用量の削減項目

項 目	取り組み状況
●休日出勤時、残業時、職場内の照明は必要最小限にする	○
●休憩時間は、蛍光灯を消灯する（作業台を含む）	○
●作業者不在となる職場の蛍光灯は消灯する	○
●自然光をできるだけ取り入れ、窓側の蛍光灯を消灯する	○
●作業に支障が無い所の蛍光灯は、常に消灯する	○
●通常使用する照明スイッチにマーキングし、必要な時しか点灯させない	○
●モニター等、OA 機器購入時は、消費電力が低い物を選定する 【管理】	○
●職場内で不要と思われる場所の蛍光灯、換気扇を消す	○
●手洗い場、トイレの蛍光灯は、使用時のみ点灯する	○
●照明器具を年一回掃除する	○
●室内空調の温度設定を、夏は28度、冬は20度とする	○
●帰宅時、最後の人は冷暖房、プリンター、コピー機の消し忘れをチェックする	○
●コピー機は使用したら待機状態にする	○
●5分以上席を離れるときは、パソコンの画面スイッチを切る	○
●プリンターやシュレッダーなどは、使う時のみスイッチを入れる	○
●未使用機械のブレーカーは切る 【製造1・2】	○
●無人運転のNC機械のディスプレイ画面は消す 【製造2】	○
●休出時、またはエアの必要がない工場の元栓を締める 【製造1・2】	○
●設備機械の漏電、エア漏れを月一回点検する 【製造1・2】	○
●エアコンのフィルターは、年二回清掃する	○
●製造方法、製造工程に改善を加え、効率的に製造を行う 【製造1・2】	○
●デマンドモニターを監視し、必要に応じて新潟事業所内の空調設備使用の制限を行う 【管理】	○

②化石燃料消費量の削減項目

項 目	取り組み状況
●冷暖房を極力無くし、各自衣類などで調整することを推進する	○
●暖房用ボイラーの設定温度を55度とする	○
●手洗用給湯器の温度設定を40度とする 【品質、管理、製造1・2】	○
●社用車運転時、急加速、急発進、空ぶかしをしない	○
●社用車運転時のアイドリングストップを推進する（駐停車中）	○
●社用車の定期的整備による燃料効率向上、排ガス・騒音レベルの抑制を推進する 【品質、管理、生産管理、本社、大阪、姫路】	○
●作業終了一時間前にボイラーを停止し、装置内の余熱を有効利用する 【新潟事業所】	○

③紙消費量の削減項目

項 目	取り組み状況
●社内連絡文書はメール化して、紙を使わないようにする	○
●文書で連絡する場合は、回覧、掲示を励行し、配付枚数を減らす	○

●コピーの縮小機能を利用し、紙の消費量を抑える（A4を推奨）	○
●裏紙使用、両面印刷を推進し、紙の消費量を抑えるようにする	○
●プロジェクターの利用を推進し、会議用資料の配布を抑える 【新潟事業所、本社】	△
●ミスコピーを防止するため、コピー機の使用後は設定をリセットする	○
●環境に配慮した事務用品を購入する【管理】	○

④水消費量削減項目

項 目	取り組み状況
●手洗い場に洗面器を設置し、溜め水での手洗いを推進する	○
●水道配管からの漏洩を月一回点検する	○
●バルブの調整により水量及び水圧の調整を行う【新潟事業所】	○

⑤廃棄物排出量削減項目

項 目	取り組み状況
●シュレッダー使用後のくずを、梱包用クッション材に再利用する 【新潟事業所、本社】	○
●納品に使用されたダンボール箱は、再利用する【品質、生産管理、製造1・2】	○
●部品払出しに使用されたビニール袋は、再利用する【生産管理、製造1】	○
●トナーカートリッジは回収・再生し、リサイクルに努める	○
●廃棄物の分別回収を徹底し、再資源化に協力する	○
●品質劣化等による不良在庫を減少させるため、在庫数の適正化に努める 【生産管理】	○
●OA機器等の故障時には、修理可能かどうか確認し、可能な限り修理することで長期使用に努める	○

⑥化学物質の適正管理

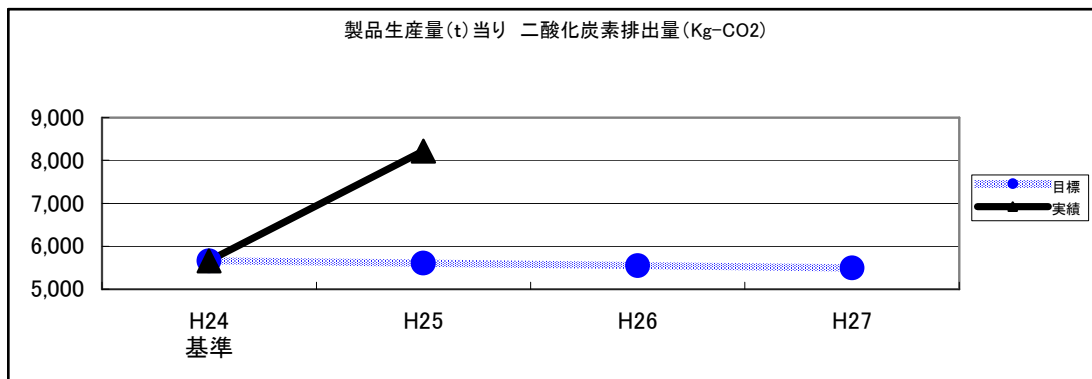
項 目	取り組み状況
●特定施設で使用の化学物質購入排出量の把握【薄膜】	○
●洗浄装置の稼働時間を小刻みにし、洗浄液（ジクロロメタン）の蒸発を抑えるようにする【薄膜】	○

⑦グリーン調達

項 目	取り組み状況
●環境に配慮した事務用品の購入に努める【管理、本社、大阪、姫路】	○

5. 環境負荷削減目標と実績の評価

二酸化炭素排出量 「評価=未達」



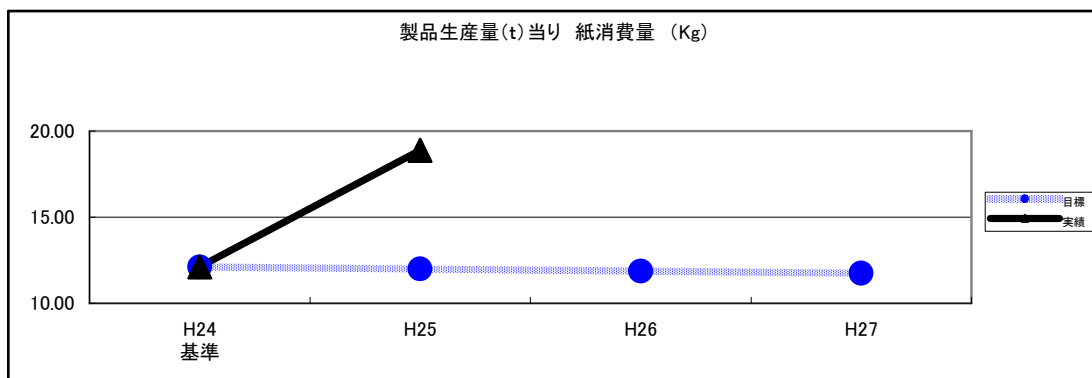
製品生産量 (t) 当り 二酸化炭素合計 (kg-CO2)	H24 基準		H25	H26	H27
	目標	5,666	5,609	5,553	5,496
実績	5,666	8,221			
H24(基準)を100としての指数	目標	100	99	98	97
	実績		145	0	0

製品生産量当り二酸化炭素排出量は、前期比 45%の増加となり、目標未達であった。

夏場にはデマンドモニターを利用した自主規制値の引き下げ(通常時の▲10%)による空調稼働時間の削減、エアコンに代えて扇風機を奨励、冬場にはエアコンに代えてストーブを奨励するなどの節電活動を実施したことで、購入電力総量では前期比で9.7%減少したが、製品生産の減少による影響が大きく、活動成果が結果につながらなかった。

厳しい状況の中でもモチベーションを維持し、地道な取り組みは継続されおり、生産性向上を目指して作業工数低減につながる改善提案が220件あったことを添えておきたい。

紙消費量 「評価=未達」

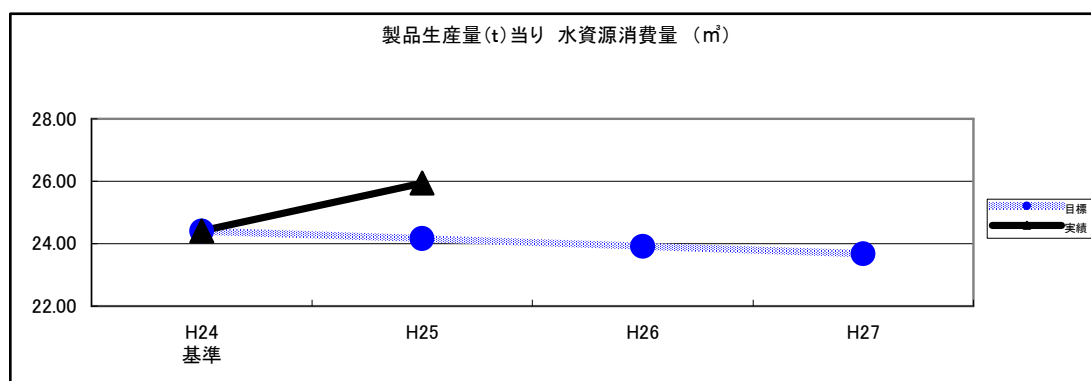


製品生産量 (t) 当り 紙消費量 (Kg)	H24 基準		H25	H26	H27
	目標	12.10	11.98	11.86	11.74
実績	12.10	18.88			
H24(基準)を100としての指数	目標	100	99	98	97
	実績		156	0	0

製品生産量当り紙資源消費量は前期比 56%の増加となり、目標未達であった。

裏紙使用、両面印刷、電子メールの奨励、プロジェクターの利用による会議資料の削減等、地道に積み重ねてきた活動は継続されており、消費総量では前期比で3.5%減少したが、製品生産量の減少による影響が大きく、結果につながらなかった。

水資源消費量 「評価＝未達」

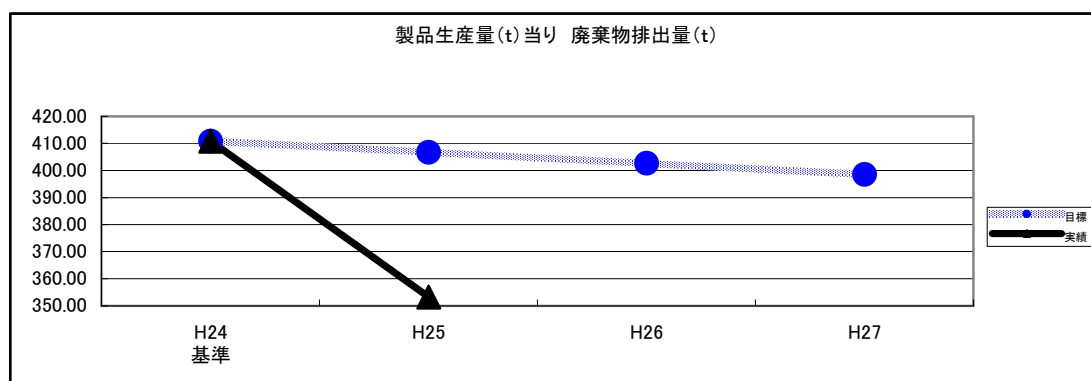


製品生産量 (t) 当り 水資源消費量 (m³)		H24 基準	H25	H26	H27
	目標		24.40	24.16	23.91
実績		24.40	25.94		
H24(基準)を100としての指数	目標	100	99	98	97
	実績		106	0	0

製品生産量当り水資源消費量は前期比6%の増加となり、目標未達であった。

手洗い時における溜め水の利用は継続されている。消費総量は前期比で34.2%減少したが、製品生産量の減少による影響が大きく、結果につながらなかった。

廃棄物排出量 「評価＝達成」



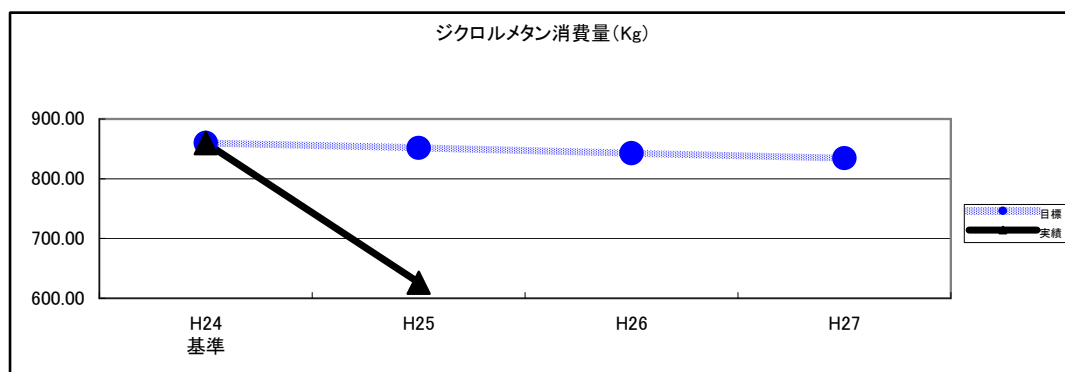
製品生産量 (t) 当り 廃棄物排出量 (t)		H24 基準	H25	H26	H27
	目標		410.79	406.68	402.57
実績		410.79	353.20		
H24(基準)を100としての指数	目標	100	99	98	97
	実績		86	0	0

製品生産量当り廃棄物排出量は前期比14%の減少となり、目標を達成した。

梱包材やビニール袋の再利用や廃棄物の分別回収も継続されており、リユース、リサイクルを意識した活動は根付いている。

排出総量は前期比で 46.8%減少となったが、この項目では製品生産量の減少が追い風となり結果につながった。

ジクロロメタン消費量 「評価＝達成」



製品生産量 (t) 当り 廃棄物排出量 (t)		H24 基準	H25	H26	H27
		目標	860.00	851.40	842.80
	実績	860.00	626.00		
H24(基準)を100としての指数	目標	100	99	98	97
	実績		73	0	0

ジクロロメタン消費量は前期比 27%の減少となり、目標を達成した。

従来、一日中稼働させていた洗浄機の電源を、洗浄工程の前後にこまめに入り切りすることで部品を出し入れする際に発生する薬品の蒸発を大幅に抑える効果があったと考える。

今期末にジクロロメタンを使った洗浄工程を廃止したため、この項目での取り組みは今期限りとなる。

グリーン購入（事務用品）の推進

事務用品について、段階的にグリーン適合品へ移行するように活動してきた。

H26年3月末時点でグリーン適合品への移行が完了しているのは、新潟事業所33アイテム、本社7アイテム、大阪営業所3アイテム、姫路営業所1アイテムであった。

コスト面での折り合いが付いた時点で随時、移行していきたい。

6. 次年度の取組み内容

H25年度の取組内容を継続して実施していくが、ジクロロメタンを使った洗浄工程を廃止したため、この項目での取り組みは今期限りとなる。

7. 代表者による全体の評価と見直し

従業員の継続的な環境活動への取組み成果が製品生産量の減少の陰に隠れてしまったことは残念であった。

内部監査報告においても環境活動計画が各職場間のバラツキもなく実践され、環境活動が社内に根付いていることを再認識させられた。

電気、水、紙、廃棄物、化学物質の全取組み項目において、総量では前期を下回っている。

全従業員が大震災直後の緊急避難措置を自発的に継続・実践してくれた努力の積み重ねが、この結果に繋がっていると思う。

H25年度は外的要因により環境活動に水をさされた格好になったが、本来の事業環境の中で環境活動が適正に評価されるように、全社をあげて立て直すよう邁進していく。

長期目標を初年度で達成したため、来期以降は目標を再設定して取り組んでいく。

長期目標

平成25年度を基準として、平成28年度末までに

- 「製品生産量当りの電力、化石燃料消費からの二酸化炭素排出量を3%削減する」
- 「製品生産量当りの紙消費量、水資源消費量、廃棄物排出量を3%削減する」

短期目標

平成25年度を基準として、

- 「製品生産量当りの電力、化石燃料消費からの二酸化炭素排出量を1%削減する」
- 「製品生産量当りの紙消費量、水資源消費量、廃棄物排出量を1%削減する」

8. 環境関連教育

教育・訓練年間計画に基づき環境関連教育を実施した。

実施時期	内容	対象者
H25.5	環境目標と環境活動計画の周知	新潟事業所全員 本社、大阪営業所、姫路営業所全員

9. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

適用となる主な環境関連法規等

主な適用法規 (◎遵守法令、○準用法令)	主な要求事項	評価
◎下水道法	<ul style="list-style-type: none"> ・特定施設の届出 ・事故時の応急処置と届出 ・水質を測定し、その結果を記録 	○
◎騒音規制法	<ul style="list-style-type: none"> ・指定区域における規制基準の遵守、特定施設の届出 	○
◎振動規制法	<ul style="list-style-type: none"> ・指定区域における規制基準の遵守、特定施設の届出 	○
◎悪臭防止法	<ul style="list-style-type: none"> ・指定区域における規制基準の遵守 	○
○PRTR法	<ul style="list-style-type: none"> ・当該化学物質の年間排出量、移動量を把握。 ・基準値以上は報告 	○
◎高圧ガス保安法	<ul style="list-style-type: none"> ・貯蔵及び取扱い開始の届出 	○
◎廃棄物の処理及び清掃に関する法律	<ul style="list-style-type: none"> ・委託契約の書面締結 ・産業廃棄物管理票の管理 ・産業廃棄物管理票の1年間の交付実績報告 	○
◎特定家庭用機器再商品化法	<ul style="list-style-type: none"> ・特定家庭機器の廃棄時にリサイクル料金の支払 	○
◎使用済自動車の再資源化等に関する法律	<ul style="list-style-type: none"> ・使用済み自動車の適正処理 	○
◎消防法	<ul style="list-style-type: none"> ・防火管理者の選任 ・危険物取扱者の選任 ・危険物貯蔵所の許可 ・危険物保管数量の遵守 	○
◎有機溶剤中毒予防規則	<ul style="list-style-type: none"> ・有機溶剤作業主任の選任 	○
◎新潟県・燕市環境基本条例	<ul style="list-style-type: none"> ・特定施設の届出、規制基準の遵守等 	○

自己管理を行い、関連法規の違反は無かった。

各方面からの訴訟等は無かった。

地域からの苦情は、無かった。